

自己評価総括表

評価項目	評価の観点	重点事項	具体的方策(昨年度の取組)	指標				評価
社会に開かれた教育課程の実現及び「熊本の学び」の推進	学校・家庭・地域による学校教育目標の共有と連携・協働	○学校・家庭・地域との連携等については、あらゆる機会(ホームページ等)を活用して情報発信する。特にホームページ閲覧数を大幅に向上させる。	・PTA総会、学校運営協議会での説明 ・学校・学年・学級だよりを発行 ・学年PTA・授業参観・行事を通じての広報活動 ・学校の様子をホームページに掲載する。 ・新聞への掲載を依頼し、広報活動の活性化を図る。	ホームページの閲覧数 学校評価:「学校は、学校だより、学年便り、学級だよりでほしい情報を提供している」(保護者)				C
	【本年度の成果と課題】 ・ホームページの閲覧数に関しては、179000と目標に近づけることができた。 ・ホームページの記事が複数年分整理されていなかったためICT支援員にも協力をいただき、整理を行っている。 ・学校評価においては、3.1という結果で現状維持となった。 ・今年度、HPの記事に職員の名前を載せることに関してご指摘の電話をいただき、修正した。		【来年度への対策】 ・HPの内容の整理を進める。 ・各学年の担当と協力し、学校の様子を多く発信していきたい。 ・時間割やお知らせ、学校の様子をHPに掲載していることを生徒や保護者に広めていきたい。		現状値	閲覧数: 168000 学校評価: 3.1	目標値	
社会に開かれた教育課程の実現及び「熊本の学び」の推進	教科横断的な視点からの教育課程の編成と活動の質の向上を図るカリキュラムマネジメント	○カリキュラムマネジメントについては、昨年度の課題を職員・生徒・保護者・地域・行政で共通理解し、具体的取組を共有する。	・諸計画案へ「3つの身につけたい力」「将来を展望する力」「自他を大切にできる力」「最後までやり抜く力」※以下「3つの身につけたい力」の記入を100%行う。 ・「3つの身につけたい力」を担任及び担当者から確実に伝える。 ・校内に「3つの身につけたい力」を掲示 ・職員や生徒リーダー会でグループワーク等を実施する。	学校評価「先生方は、分かりやすく、一人一人の力を伸ばす授業を行っている」(生徒) ・(保護者)				A
	【本年度の成果と課題】 ・諸計画案に「3つの身につけたい力」を全て記入することができた。 ・学校評価において、生徒の「先生方は分かりやすく、一人一人の力を伸ばす授業を行っている」が、R3の3.1からR4の3.2へと上昇した。 ・学校評価において、保護者の「先生方は分かりやすく、一人一人の力を伸ばす授業を行っている」が、R3の2.7からR4の2.8と上昇した。		【来年度への対策】 ・生徒も保護者も学校評価の数値は上昇しているが、学習の取組を積極的に行い、生徒の学習意欲を高め、更なる上昇を進めたい。		現状値	学校評価: 生徒:3.1 保護者:2.7	目標値	
社会に開かれた教育課程の実現及び「熊本の学び」の推進	コミュニティ・スクールの充実	○コミュニティスクールについては、3年間を見通した取組へと改善を図り、地域貢献できる生徒の育成を目指す。	・学校運営協議会の回数を増やす ・コミュニティ・スクール便りの発行を増やす ・多良木町防災訓練への参加 ・各学年1回クリーン大作戦(地域清掃ボランティア)の実施 ・生徒が地域と協力しながら活動している意識を持つ	学校評価「学校は、地域の方々と協力しながら活動している」(生徒)				C
	【本年度の成果と課題】 ・学校運営協議会の開催回数は、昨年度と同じ回数しか開催できなかった。各部会の会議は、それぞれ行い、打ち合わせ等を詳しく行うことができた。 ・コミュニティ・スクール便りは、3月発行予定を含めて、昨年度より1回増え、広報活動は推進を図れた。 ・多良木町防災訓練は、コロナウイルス感染症予防のため、参加はできなかった。各学年のクリーン大作戦は、地域の方とともに実施した。 ・本年度は、「あびす祭り」での神輿担ぎに参加することができ、地域と協力しながら活動する意識は高まったように感じる。 ・目標値の3.5には届かず、現状値のままであった。		【来年度への対策】 ・コロナウイルス感染症感染予防のため、実施できなかった活動があったため。コロナウイルス感染症の感染状況や感染防止の取組を万全にしながら、現在中止している活動の再開をまずは行いたい。 ・来年度の目標値の3.3に設定。		現状値	学校評価: 3.2	目標値	

自己評価総括表

評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策(昨年度の取組)	指標				評価
豊かな心の育成	人権教育、道徳教育の充実	○人権教育等の充実については、人権尊重の視点を学校(生徒・教師・保護者)で共有するための具体的取組を実施する。	・人権教育の視点を構想案へ確実な位置づける ・主査を中心に研修実施及び充実に図る ・授業公開を行う ・他の学級の担任が道徳の授業を実施する「ローテーション授業」や校長や教頭などの担任外の授業の実施 ・道徳授業実践の作成 ・地域の人材バンクを町と協力し作成する。	学校評価:「先生方は、いじめや差別をゆるさない心を育てる指導をしている。」(生徒)				A
	【本年度の成果と課題】 ・学校評価「先生は、いじめや差別をゆるさない心を育てる指導をしている」が目標値の3.4を達成することができた。 ・各学年で検討し生徒の実態に応じた人権教育、道徳教育の実践ができた。 ・道徳教育において、教員のローテーション授業を行い、様々な価値に触れることができた。 ・人権教育において、「実践行動につなぐ」授業への3つのアプローチを参考に授業を行うことができた。		【来年度への対策】 ・様々な道徳的価値や人権の重要課題について学習を行う際に生徒の実態を把握し、共通理解することが必要である。 ・学習後に個人差があるため理解状況の把握を行い、見取りを行う必要がある。	現 状 値	学校評価: 3.3	目 標 値	学校評価: 3.4	
豊かな心の育成	特別活動の充実	○特別活動の充実については、各委員会の活性化を図るため、各委員会主催の行事を必ず実施する。	・身につけさせたい3つの力」を意識した学校行事の充実 ・PTA活動等を通して家庭との連携 ・各委員会を活動周知ボードで広報 ・リーダーの発表機会増…班会議の実施 ・各委員会活動の取組の役割分担で「1人1役」を意識する。 ・近隣中学校の生徒会で意見交換を行う場を設け、各学校の実践を学ぶ場を設ける。[上球磨サミット(多良木中、水上中、湯前中のそれぞれの生徒会が集まって話し合いを開催)]	B評価:学期末委員会アンケートで達成度が85%以上 A評価:学期末委員会アンケートで達成度が90%以上				A
	【本年度の成果と課題】 ・委員会アンケートの結果、達成感を感じている生徒が96%だった。今後も自分ができることを進んで見つけられるような委員会活動を目指さなければならない。 ・委員会アンケートで校則改定があまり進まず、生徒に校則改定の実感が湧かなかったという意見が多くあった。		【来年度への対策】 ・校則改定の動きを加速させたい。(校則を変えることが前提ではなく、校則を知ることから始める。) ・委員会活動で生徒1人1人に発言する場をもうけたい。	現 状 値	95%	目 標 値	90%	
豊かな心の育成	いじめ・不登校の未然防止と解消	○いじめ・不登校の未然防止と解消については、生徒と向き合う時間を昨年度以上に確保し、相談体制の強化を図る。	・生活アンケート月一回、学期一回の教育相談により、生徒の情報を早めに収集し、指導・支援につなげる。 ・関係機関と積極的に連携し、生徒にあった支援方法を整理する。 ・2週間に1回のハートサポート(いじめ不登校対策)委員会を、週1回実施する。	学校評価「先生は、いじめや差別をゆるさない心を育てる指導をしている」(生徒)				A
	【本年度の成果と課題】 ・学校評価「先生は、いじめや差別をゆるさない心を育てる指導をしている」がR3の3.3からR4には3.4へと上昇した。 ・毎週一回、ハートサポート委員会を実施し、生徒の実情についてPDCAサイクルを進めることができた。 ・生活アンケートを月に1回必ず実施することができた。 ・関係機関と連携を進め、生徒に合った支援方法を整理することができた。		【来年度への対策】 ・小学校時代のトラブルが整理されていないまま、中学校に入學して再燃してしまうことがあるため、小学校との連携の必要性がある。 ・生徒がアンケートや口頭で訴えてきた際に、職員の情報の流れ、保護者との連携等、更なるスピーディーさが必要となる。	現 状 値	学校評価: 3.3	目 標 値	学校評価: 3.4	

自己評価総括表

評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策(昨年度の取組)	指標				評価
確かな学力の育成	授業の工夫改善	○学習について、最優先取組事項としては、授業改善に取り組む。	・全職員参加の授業研究会を6回以上実施。 ・熊本大学附属中学校との連携交流を通しての研究授業及び全員参加研修を設定。 ・「全国学力・学習状況調査」「熊本県学力・学習状況調査」問題等の活用 ・家庭学習の習慣化への工夫(自主的にできるプリントの準備・週一回の家庭での点検) ・管理職による授業参観を1日1回以上実施。 ・学習構想案作成を通して「熊本の学び」(熊本県による教育推進プラン ※以下「熊本の学び」)の理解への取組を全員実施。 ・熊本の学びを意識した授業の改善。	①「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。」について、肯定的に回答した児童生徒の割合(県学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査) ②「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直して、次の学習に取り組んでいると思いますか」について、肯定的に回答した生徒の割合(県学力・学習状況調査学校教師質問紙調査)				C
	【本年度の成果と課題】 ・熊本大学附属中学校との連携交流を通しての研究授業及び全員参加研修を実施することができた。 ・学習構想案作成を通して「熊本の学び」の理解への取組を全員実施することができた。 ・朝の小テストと夕方の学習会の実施を通して、基礎基本の定着が図れた。 ・家庭学習の定着に課題が見られ、継続した指導が必要である。 ・「熊本の学び」に即し単元のゴールの姿(授業の単元毎に子どもに目指して欲しい姿:以下「単元のゴールの姿」)を設定し生徒に示すことはできたが、さらに評価を工夫する必要がある。 ・生徒の達成感が図られるような授業改善に取り組んでいく。 ・単元テスト等を利用して振り返りを行い、次の学習への意欲へとつなげる。 ・三者比較学校評価アンケート「分かる授業の展開」生徒80%であった。 ・指標①については第1学年は83.8%、第2学年は84.0%だった。指標②については第1学年は76.3%、第2学年は65.4%だった。		【来年度への対策】 ・全職員参加の授業研究会を実施する。 ・「全国学力・学習状況調査」や「熊本県学力・学習状況調査」問題等の活用した授業改善に取り組む。 ・家庭学習の習慣化への工夫(自主的にできるプリントの準備・週一回の家庭での点検等)をおこなう。 ・学習構想案(授業の計画表)作成を通して「熊本の学び」の理解への取組を全員実施する。 ・熊本の学びを意識した授業の改善をおこなう。	現状値	①第1学年 85.7% 第2学年 80.5% ②第1学年 67.9% 第2学年 65.5%	目標値	①第1学年 88.0% 第2学年 83.0% ②第1学年 70.0% 第2学年 68.0%	
確かな学力の育成	熊本県学力・学習状況調査における学力向上	熊本県学力・学習状況調査結果において各教科とも県平均以上	○各教科での過去問における問題分析と過去における生徒のつまずき等を分析し今後の取組の検討した。 ○日課の工夫により、6時間目と放課後の時間を組み合わせ、80分間の時間を生み出し、2、3年生で各クラス1日2駒の学力充実タイムを設定する。教科担任、学年職員、学習支援員、地域学校協働活動支援員の複数体制で生徒の学力充実を支援する。	県学力・学習状況調査平均正答率における県平均との差 B評価:県学力・学習状況調査県平均正答率を超えている。 A評価:県学力調査を3.0ポイント以上超えている。				C
	【本年度の成果と課題】 ・年間を通して、学力充実タイムを設定して取り組んだが、県学力・学習状況調査に於いて、すべての教科で県の平均を超えることはできなかった。 ・教科の枠を越え、本校の生徒の実態に合った授業改善の話し合いをすることができた。		【今年度への対策】 ・今回県平均を上回ることができなかった教科はもちろんのこと、全ての教科で課題のあった問題の原因を考察し、授業改善に生かす。 ・学力充実タイムでは、一斉に6クラス行うため、教科担当者以外の支援するサポート体制に課題がある。教育委員会とも協議し、地域学校協働活動支援員の増員を図る。	現状値	1年国語-2.0、 1年数学+11.4、 1年英語-6.9、 2年国語+2.9、 2年数学+4.2、 2年英語-0.4	目標値	県学力・学習状況調査平均正答率において、すべての教科で県平均を超える。	
就学前教育の充実及び特別支援教育の充実	多良木町保・小・中連携の充実と職員意識の向上	○幼・保、小、中連携については、授業参観を活性化し、中学校第3学年をゴールの姿とした一貫した具体的取組を設定する。	・特に小、中連携の取組の周知 ・小6対象の「保健体育」授業実施 ・新入生説明会の実施 ・町内小学校への授業参観及び情報交換会	学校評価:「学校は、地域の方々と協力しながら活動している」(生徒)・(保護者)				B
	【本年度の成果と課題】 ・生徒と保護者の学校評価「学校は、地域の方々と協力しながら活動している」のデータは、R3とR4どちらも同じ数値であった。 ・小学校6年生の「保健体育」授業を実施することができた。 ・新入生説明会を実施することができた。 ・小学校6年生に向けた交流授業として、数学・理科・英語科の教師が小学校を訪問し、授業することができた。 ・熊本大学附属小中学校の協力校として授業をすべての多良木町内の学校が公開したため、児童の様子をそれぞれ見ることができた。 ・小学校との情報交換会を実施することができた。		【来年度への対策】 ・小学校との連携を図ることで、小学校時代の生徒の実情を中学校の教職員が理解し、それらに関する支援体制を早めに構築することができるようになる。 ・生徒や保護者に、小中連携の取組を視覚化することで、数値を上昇させる取組とする。	現状値	学校評価: 生徒 3.2 保護者 2.9	目標値	学校評価: 生徒 3.3 保護者 3.0	

自己評価総括表

評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策(昨年度の取組)	指標				評価
就学前教育の充実及び特別支援教育の充実	特別支援教育の充実と教職員の意識向上	○特別支援教育の充実等については、スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）、巡回指導員等との連携を深め、研修を設定し、学校の取組を見直す。	・特別支援委員会を定期的に設定 ・人間の心、特に知覚、記憶、思考、言語、学習、意思決定、行動選択などの認知の働きを解明する「認知心理学」を活用した学習支援と人間関係づくりの構築 ・認知機能を向上させる「オンラインコグトレ」を活用した認知機能の向上 ・認知機能に基づいたアドバイスや教育相談の実施 ・学習関係に関する教育相談の実施	学校評価:「先生方は、生徒の悩みについてよく対応している」(生徒) 認知心理テストの2・3年生のデータ比較 コグトレのデータ				A
	【本年度の成果と課題】 ・特別支援委員会を定期的に設定することができた。 ・SC、SSWや巡回指導員等との連携を深め、個々の生徒に合った支援体制の構築がなされた。 ・学校評価「先生方は、生徒の悩みについてよく対応している」では、生徒はR3は3.3であったが、R4は3.4に上昇した。 ・オンラインコグトレを実施し、認知機能の向上を図ることができた。 ・認知機能に基づいたアドバイスや教育相談の実施を進めることができた。		【来年度への対策】 ・外部から研修に来てもらって、教職員に対して実施する。 ・特別支援教育の充実を図るために、本校で実施できる支援先の資源を増やしておく。 ・教育相談をすべての教員が実施できるように、スキルアップに努める。 ・スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）や巡回指導員の更なる連携と、有機的な活用を図る。	現状値	学校評価: 3.3	目標値	学校評価: 3.4	
環境教育及びキャリア教育の推進	環境教育の充実	○令和4年度「多良木中学校環境宣言」を生徒総会で採択し行動を起こす ○SDGsの視点で生徒会委員会の活動を見直す ○学校外組織との連携	・環境委員会による黙働清掃クラスマッチの設定 ・環境委員会による節電クラスマッチの設定 ・SDGsの広報及び家庭で行われているSDGsの調査・紹介 ・「令和4年度多良木中環境宣言」実施と給食時に実施されるSDGsの理解推進 ・地域に出かけての「クリーン大作戦」(地域清掃ボランティア活動)の実施 ・家庭向けの広報誌の発行	学校評価:「掃除や美化作業に、積極的に取り組む雰囲気がある」(生徒)				B
	【本年度の成果と課題】 ・多良木中学校環境宣言を生徒総会で採択し、全校で取り組むことができた。計画されたものはほぼ実行できた。 ・SDGsの視点で生徒会委員会の見直し、それぞれの委員会で活動することができた。 ・学校外組織である学校運営委員会との連携の活動もできた。今後は学校SDGsの取り組みをさらに充実させることで、家庭や地域と共に持続可能な社会を目指す取組が必要である。学校評価の目標値に対しては3.3で上回ることができた。		【来年度への対策】 ・学校版ISOの一層の充実を図るために環境委員会をさらに活性化させて具体的行動を起こす。 ・SDGsの取り組みについて、まだできていない家庭と一体になった取組を充実させる。 ・家庭の取組を広報紙や校内放送で紹介するなどの取組を充実させることが望まれる。	現状値	学校評価: 3.1	目標値	学校評価: 3.2	
環境教育及びキャリア教育の推進	キャリア教育の推進	○キャリア教育については、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫された「キャリアパスポート」(※以下「キャリアパスポート」)の項目を、身についた力を確認できる項目へと見直しを図る。	・キャリアパスポートの見直し(人権教育推進等) ・各学期始めに目標と取組計画をキャリアパスポートに記入 ・各学期末に自己評価と今後の行動目標、振り返りをキャリアパスポートに記入 ・進路指導主事と学年部が連携したキャリアパスポートの保管及び引き継ぎ ・管理職と進路指導主事を中心とした高校入試関係文書出願システムの見直し及びシステムをもとにした事務処理	学校評価:「体育大会や文化祭、生徒会、合唱コンクールなどで、自主的な態度が身についている。」(生徒)				C
	【本年度の成果と課題】 ・キャリアパスポートの項目は、「3つの身につけたい力」を確認できる項目へと見直しを図ることができた。 ・高校入試関係文書出願システムは、来年度の進路指導主事が作成できる「手引き書」を作成することができた。 ・「体育大会や文化祭、生徒会、合唱コンクールなどで、自主的な態度が身についている。」の項目に対して、生徒は3.3、保護者が、3.1、職員は3.6であった。		【来年度への対策】 ・各学期始めに目標と取組計画をキャリアパスポートに記入するシートを作成する。 ・キャリアパスポートに保護者からのコメントを記入していた。 ・高校入試関係文書出願システムを更新したので、更に見直し本校に合った修正をするともにシステムをもとにした事務処理を確立する。	現状値	学校評価: 3.4	目標値	学校評価: 3.5	

自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策(昨年度の取組)	指標				評価
健康教育の推進	健康教育(保健・体育・安全・給食)の充実	○(保健)保健委員会の活動を活性化させ、生徒が自らの心や体の健康づくりを行い、基本的な生活習慣(感染症対策を含む)が身についた生徒の育成を目指す。 ○(給食)給食を通して、食の大切さを学び、実践できる生徒の育成。 ○(体育)朝のスポーツタイムの取組を中心に体力の向上と身体能力の向上を図る。 ○(安全)登下校中の安全指導を中心に、学校で落ち着いた安全な生活を送ることができる生徒の育成を目指す。	(保健) ・健康観察を毎日提出するよう指導をする ・保健委員会による健やかコラムの放送。 ・保健委員会による、掲示物(毎月・文化祭)の作成、掲示。 (安全) ・学活やタスクタイム(帰りの学活)等で安全に関する指導を行う。 ・安全委員会がヘルメットの固定の状況をチェックする。 (体育) ・朝スポの実施。 (給食) ・残菜チェックをし、放送でお知らせする。 ・郷土料理や地元の産物を使った献立の日「ふるさとくまさんデー」には給食時に栄養士の思いや旬の野菜等をお知らせする。 ・お弁当デーの年5回の取組の実施。	○(保健)学校評価:「先生方は、生徒の心やからだの健康づくりについて指導している。(V、E)(生徒)」 ○(給食)学校評価:「先生方は、給食を通して、食の大切さを教えている」(生徒) ○(体育)朝スポの取組を中心に体力の向上と身体能力の向上を図る。特に本校の課題である、持久力の向上を全国の平均値を超えることを目指す。 ○(安全)学校評価:「落ち着いて安全に登下校できている」(生徒)					
		【本年度の成果と課題】【保健関係】 成果としては、保健委員会による健やかコラム(健康情報が書かれた短い記事)の放送を7月と12月に実施することができた。7月は暑さに関すること、12月は生活習慣に関する内容を放送した。生徒の健康に関する関心を高めるきっかけにすることができた。課題としては、活動時間の確保が難しく、掲示物の作成をすることができなかった。学校評価の結果は3.3と目標値に達せず、現状維持となった。	【来年度への対策】【保健関係】 ・「自他の健康に関心を持ち、生徒が自らの心や体の健康作りを行い、基本的な生活習慣が身についた生徒の育成」を目指したい。そのために、保健委員会の活動の活性化を図りたい。具体的には、1年間取り組む健康課題を1、2個決め、3月には前述した目指す姿に近づけるように1年間の計画を実施可能な範囲で立てる。また、体育委員会や図書委員会との連携も図っていきたい。	現状値	学校評価: 3.3	目標値	学校評価: 3.4	C	
		【本年度の成果と課題】【給食関係】 成果としては、食の大切さとして給食委員会を通して各月でポスター作りと張り出しや放送にて紹介や呼びかけ、お知らせなどを行い、食の意識づけができた。生徒達が主体的に動けるようにサポート行った。課題は、お弁当デーの年5回の取り組みが、給食センターの都合により1回だけとなり、自分で作るお弁当の機会が減ってしまった。学校評価の結果:「先生方は給食を通して食の大切さを教えている」は目標値3.2に対し現状値3.1であった。	【来年度への対策】【給食関係】 ・食事マナーを身につけることや偏りのないバランスのとれた食事を摂ることで生活習慣病の予防につながることや食への感謝の心をもつことを目指す。その為に、給食時間に食に関する放送を行う。また、朝食の摂取率を上げることで体力向上や学力向上につながるため、朝食摂取の取り組みをしていきたい。	現状値	学校評価: 3.1	目標値	学校評価 3.2	C	
		【本年度の成果と課題】【体育関係】 朝の時間を使った、全校一斉のランニングやストレッチ活動など計画的に行うことができた。その際、体育服忘れなどもいたため、生徒の意欲向上をこれから図る必要がある。体育的行事については、ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいた。本校の持久力は全国平均を下回った。	【来年度への対策】【体育関係】 ・全校生徒で取り組んでいる活動や、体育的行事、授業を通して日常的に運動に親しむ力を付けたい。そのために新体力テストを用いた、生徒の分析、実践に取り組んでいきたい。	現状値	新体力テスト C評価以上 34%	目標値	新体力テスト C評価以上 40%	B	
		【本年度の成果と課題】【安全関係】 交通安全教室などの取り組みは計画的にできた。しかし、荷ひもやタスキ等の着用には、忘れてしまう生徒も含め、徹底が不十分であった。保護者送迎場所について、路上駐車などに対する地域からのご意見があった。学校評価:「落ち着いて安全に登下校できている」は3.4であった。	【来年度への対策】【安全関係】 ・自転車通学許可までに指導の工夫を行う。決まりを守れなかった生徒への指導を職員全体でできるように、工夫をする。また毎週行っていた下校指導を、生徒が一斉に帰る水曜日に移行する。	現状値	学校評価: 3.4	目標値	学校評価: 3.5	C	

学校運営協議会より

○「豊かな心の育成」についての意見

【質問】挨拶の指導がなかなか難しいように感じる。挨拶について、校内と校外の指導について、どのような指導をしているか？

(回答) 多良木中学校では、立ち止まり挨拶を実施している。急いでいても止まることが礼儀であり、相手を大切にすることの育成に取り組んでいる。

校外の挨拶については、不審な人がいたら逃げることや助けを呼ぶことを指導している。地域を元気にするためにも、挨拶をすることは大事にしてほしいが、難しい時代になったと感じる。

(意見) 不登校対策がしっかりされていて、安心した。来年度は結果が出ることを期待したいと思う。

(意見) 教育相談が充実していることが分かった。実施だけでなく、問題が起こる前に、早めに対処をして課題発生を未然に防ぐことが大切。

【質問】いじめ問題サミットについて詳しく教えてほしい。

(回答) 熊本県の代表として参加させていただいた。本校の取り組みである「輝け命の人権集会」や発表に対しての「返し」の時間を設けていることについて発表した。行事ごとに生徒主体となって取り組むことを大切にしていることを発表した。他県では、生徒会で校歌の4番を作成したりするなど様々な取り組みをされていた。各県の取り組みについて学んだことを本校でも生かしていきたい。

○「確かな学力の育成」についての意見

(意見) コロナ渦でなかなか、思うような活動ができなかった。来年度は、青年団による学習会なども実施できるようになるのではないだろうか。

(意見) 教科支援は複数で行っているところもあるが、一人で行っている授業に対しても対策が必要。

(意見) 授業中の態度、姿勢はしっかりと指導を行う。そうすることにより、いじめを未然に防ぐことにもつながる。

(感想) 授業中、生徒に対して丁寧な言葉で優しく指導をする姿がとてもよかった。また、学力の向上を図るための策もしっかり練られている。

○「健康教育の推進」についての意見

(意見) 交通(自転車通学)指導の徹底を図った方がよい。学校側で行うだけでなく、多良木警察署と連携を図り、無事故を目指してほしい。

(意見) 来年度の移転に伴い、ゆめマートの所にある門を利用した登下校も視野に入れてもよいのではないだろうか。

○その他の意見

(感想) 学校評価については、「C」つけるべきところは「C」をつけてあり、適正な運営がなされている。

(意見) C評価のものは改善してほしい。しかし、B評価のものはA評価にできるようにこれからの取り組みをお願いしたい。

(意見) 熊大付属中との連携の意義はどのようなものがあるのか。それをどうやって波及させていくかが大切なのではないだろうか。

(提案) 来年度は、運営協議会の開催量を増やし、コミュニティスクールの充実に向けて取り組んでいきたい。

今後の取組について

・本年度は、学校運営委員会の意見を受け、各項目毎に「指標」を設定し、「指標」を元に評価した。「C」の評価もあったが、「B」または「A」を目標として、来年度の対策を話し合った。各項目ごと及び各学年で話し合った対策を、確実に令和5年度に実施したい。

・本年度の本校学校評価については、学校運営協議会において、一定の評価をいただいた。学校評価における検証改善サイクルが、さらに機能的に運用できるように見直しを常に継続したい。

・本年度の学校評価において、特に「学力向上」に課題がある。来年度は、タブレットを活用した取組や「学力充実タイム」の定期的な設定等を推進したい。